



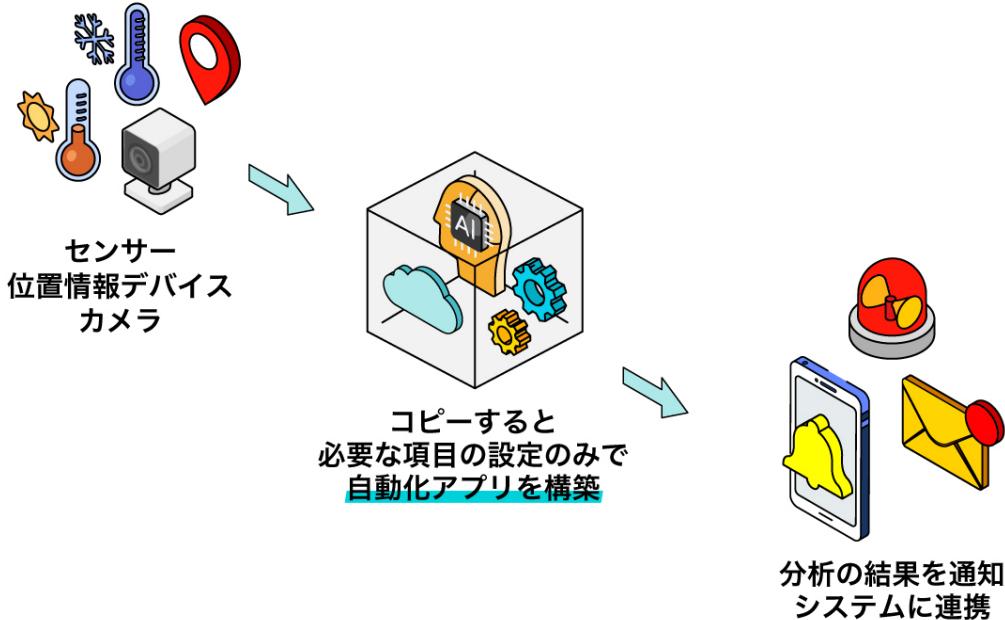
2025年12月22日
株式会社ソラコム

SORACOM Flux、カメラ・GPS・ボタンと連携する IoT自動化テンプレートを拡充

人数検知、異常検知、位置判定など、現場業務に直結する14種類を提供。
画像解析の範囲を指定する新機能も追加

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 CEO 玉川憲)は、IoTシステムの自動化やAIを活用したアプリケーションを構築できるサービス「SORACOM Flux(ソラコム フラックス)」において、用意されたテンプレートを選び、必要な項目を設定するだけでIoTシステムの自動化アプリケーションを構築できる「アプリテンプレート」を拡充し、提供テンプレート数が14種類になったことをお知らせします。

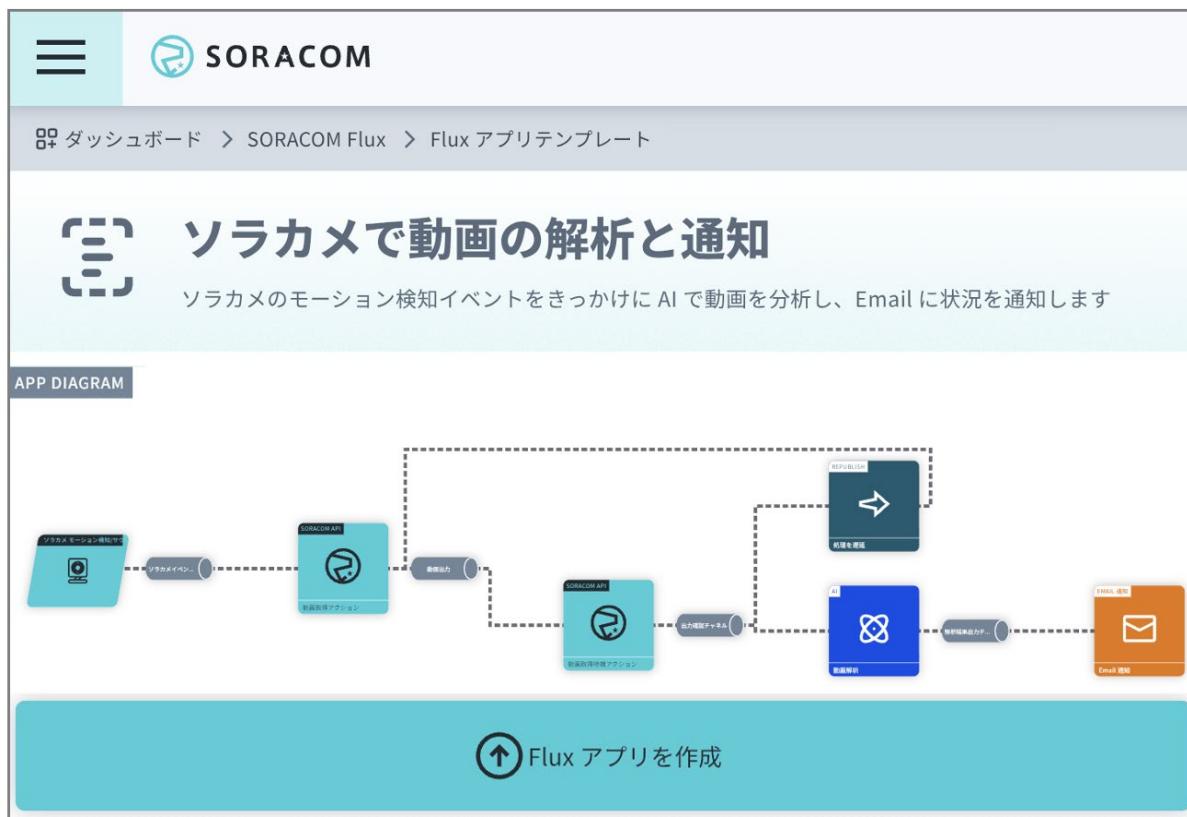
SORACOM Flux、IoT自動化テンプレート



SORACOM Fluxは、センサーヤやカメラなどから取得したIoTデータをもとに、通知や生成AIによる分析といった処理を組み合わせることで、業務の効率化や自動化を実現するIoTオートメーションサービスです。プログラミングの知識がなくても、ブラウザ上の操作だけで設定できることから、現場主導のデジタル化を支援する仕組みとして活用が進んでいます。

SORACOM Fluxでは、イベントトリガー、条件分岐、アクション、出力先など、アプリケーションを構成する各要素をユーザー自身が設計します。「アプリテンプレート」は、代表的なユースケースに最適化されたワークフローをあらかじめ用意したもので、テンプレートを選択して複製するだけでIoTアプリケーションのワークフローが自動作成され、自動化アプリケーションをすぐに利用開始できます。

新テンプレートのひとつである、「ソラカメで動画の解析と通知」は、ソラコムクラウドカメラサービス「ソラカメ」で取得した動画を生成AIで分析し、その結果に応じて通知を行う自動化アプリケーションを構築できるテンプレートです。静止画では、特定の作業や状態を狙ったタイミングで撮影・分析することが難しい場合がありますが、動画ではその前後の状況も含めて記録できるため、分析に適したフレームをAIが選択して分析することが可能になり、撮影のタイミングが重要なユースケースにおいても、状況把握や検知を効率的に実現できます。ソラカメを利用したテンプレートとしては、このほかにも「ソラカメで人数検知して可視化と通知」などが提供されています。



また、SORACOM IoT ストアで提供しているリファレンスデバイスと連携するテンプレートも拡充しています。「LTE-Mボタンでソラカメにリアルタイムアクセス」では、セルラー通信対応のボタンデバイスをシャッターデバイス代わりに使用し、撮影した画像を生成AIで分析して結果を通知する仕組みを構築できます。例えば、駐車場の利用状況を知りたい時にボタンをおすことで、現在の画像に車が何台止まっているかを分析させ、テキストで通知を受け取ることができます。

「GPSマルチユニットで位置情報を判定して通知」では、GPS デバイスから取得した位置情報をもとに、指定した座標から一定範囲の内外を判定し、その結果を通知するジオフェンシングのユ

ースケースを実現します。GPSマルチユニットを利用したテンプレートとしては、位置情報から、1kmメッシュの天気予報情報を取得して通知する「GPSマルチユニットでパーソナル天気予報」も提供されています。

さらに、SORACOM Fluxの機能として、画像解析を伴う自動化をより高度化する新アクション「バウンディングボックス」機能がご利用いただけるようになりました。本機能では、画像内の特定のエリアを枠(バウンディングボックス)で指定し、その枠内のみをAIに分析させることができます。複数の枠の設定も可能で、カメラを活用した特定の棚の在庫推定や、特定エリアにおける人物検出など、より精度の高い画像解析システムを構築できます。



SORACOM Fluxは、お客様からのユースケースに基づくフィードバックや最新の生成AIサービス動向を踏まえて、引き続き機能をアップデートし、現場のデジタル化と自動化を推進していきます。

SORACOM Fluxについて

SORACOM Fluxは、デバイスから送信されたセンサーデータやカメラから送信された画像に対して、ルールを適用し、複数のデータソースや生成AIを組み合わせて分析/判断し、その結果をデバイスの制御に反映させるIoTアプリケーションをブラウザ上の操作で構築できます。

14種類のテンプレート詳細

業務の自動化を支援するテンプレート

- 温湿度センサーから熱中症リスク計算し多言語でチャットにお知らせ
- ソラカメで人数検知して可視化と通知
- ソラカメで異常の検知と通知
- ソラカメで動画の解析と通知
- pingによるデバイス死活監視
- LTE-M ボタンでソラカメにリアルタイムアクセス
- RTSP対応カメラで人数検知して通知
- GPSマルチユニットでパーソナル天気予報
- GPSマルチユニットで位置情報を判定して通知

SORACOMの運用を支援するテンプレート

- IoT SIMデータ通信量の通知
- SAMユーザーMFAチェックアプリ
- IoTプラットフォームSORACOMの利用料金の通知
- ソラカメの定期スリープと定期起動
- ソラカメの画質設定を定期更新
- ソラコム利用料金の通知

SORACOM IoT テンプレートギャラリー

<https://iot-template-gallery.soracom.jp/>

<テンプレートを使ったアプリケーション構築時の画面イメージ>

The screenshot shows the SORACOM IoT Template Gallery interface. The main title is 'ソラカメで人数検知して可視化と通知アプリケーション'. The '概要' (Overview) section includes a note that the template uses the 'Standard' plan. The 'Flux アプリを実行した場合の概算費用' (Estimated cost when running the Flux app) section shows a note about actual usage fees. The '事前の準備' (Preparation) section lists steps like 'アプリの作成' (Create app) and 'アプリの作成後に行うこと' (What to do after creating the app). The 'APP DIAGRAM' section displays a flowchart of the application logic:

```
graph LR
    A[ソラカメで人数検知して可視化と通知アプリケーション] --> B[実行実行デリバリー]
    B --> C[SORACOM API]
    C --> D[AI]
    D --> E[人物検知AIアクション]
    E --> F[データ表示]
    E --> G[EMAIL通知]
    F --> G
```

The diagram shows data flowing from the app icon to a delivery node, then to a SORACOM API node, which then connects to an AI node. The AI node branches into two actions: '人物検知AIアクション' (Human detection AI action) and 'データ表示' (Data display). The '人物検知AIアクション' leads to an 'EMAIL通知' (Email notification) node.

ウェブサイト

<https://soracom.jp/services/flux/>

ユーザーガイド

<https://users.soracom.io/ja-jp/docs/flux/>

ソラコムについて

AI/IoTプラットフォームSORACOMは、世界213の国と地域でつながるIoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業DXから、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいているます。

ソラコムコーポレートサイト <https://soracom.com>

<本ニュースに関するお問い合わせ>

株式会社ソラコム 広報 田渕

pr@soracom.jp